

「2018年香港中文大学サマープログラム（中国語コース）参加報告書」

京都大学経営管理教育部修士2年 奈良美和子

＜学習成果＞

幼少期に中国に長く住んでいた経験があるものの、小学生以来中国語を勉強していなかったため、学生最後の夏期休暇を利用し、中国語を再び学習したいと思い、このプログラムに参加した。中国語はほとんど覚えていない状況だったが、現地派遣の前に、中国人留学生によるレッスンが複数回あったことで、実際の授業前に予習をすることができた。

現地での授業は最初の二日間、複数のレベルを試すことができ、自分に合ったレベルを見つけることができた。また、授業は少人数（15名程度）で行われ、午前は主に文法やリーディング、午後はリスニングとスピーキングを学習した。講師と学生との距離が近く、積極的な発言が求められ、非常に楽しく授業に参加することができた。オンライン上での課題と、授業内での小テストの量も適切で、授業外の時間も有効に活用することができたと思う。今後も中国人留学生と積極的に中国語で会話を試みるとともに、中国語検定など資格試験を受けて、今回の学習成果を定量的に測りたい。

＜海外での経験＞

平日の授業以外の時間では、近くのショッピングモールへ行ったり、自炊をしたり、寮にある卓球場で卓球をしたりと充実した時間を過ごした。土曜日には、香港中文大学側で用意されていたツアーに参加した。少人数のグループに分かれ、現地学生TAに香港の寺や博物館などを案内してもらった。例年ではマカオや深センへ行くツアーが用意されていると聞いていたため、少し残念ではあったが、全くの自由時間であった日曜日に自分たちで予定を立て、そうした遠出もすることができた。

また、中国深センに4年弱住んでいた経験があったため、香港及び深センは懐かしい土地であり、昔行ったことのある場所などを散策して楽しんだ。記憶にある風景と発展著しい現在の状況とを比べたり、日本の発展過程との違いは何であるのか、どのような文化や歴史が関係して今の深センや香港が出来上がっているのかといったことについて考えたりする事ができ、非常に興味深かった。

＜プログラム内容＞

今回このプログラムには京大から9名が参加した。寮の部屋は二人部屋で、同じ大学から参加した学生がペアになることがほとんどだった。授業以外のほとんどの時間を京大生や他の学生とともに過ごした。それぞれ様々な知識や経験があり、たくさんの刺激をもらった。

また、今回のプログラムの中で、香港中文大学の歴史学科の学生とお互いの国の文化や歴史についてプレゼンテーションを行う機会があった。香港中文大学の学生が発表してくれた内容はとても濃く、関連する内容についてもっと議論してみたいと思ったが、時間の都合及び中国と香港についての歴史的な内容は議題にはいけないという規制があったため、消化不良となってしまったことが非常に残念である。デリケートな問題ではあると思うが、もし今後機会があれば、中国や香港の学生らはどのように歴史を意識しているのか知りたいと思う。

＜進路への影響について＞

進路への直接的な影響はないが、今回中国語を集中的に学んだことで、より強く中国語を習得したいと思うようになった。残り半年の学生生活の中で積極的に中国語を学ぶ機会を見つけ、少しずつでも上達していきたい。また、今回のプログラムを通じてより広い視野を持ち続けることが重要であると強く感じた。そのためにもまだ経験したことのない新しい世界との接点を自らつくっていききたいと思う。